

二月

寒い空が雪となった。埋めて白く、どこを道ともわ
かち難い。その雪の上を、難儀がるのはおとなたちで
ある。嬉々としてよろこび走ってゆくのは子どもたち
である。

子どもには何でも楽しくないものはない。何ももの
も、新しい興味と勇ましい気力とを喚び起こさずにい
ない。何ごとに対しても、苦にしたり、しりごみした
りしない。

おとなが、寒さにふるえて冬籠る此の二月こそ、子
どもとおとなの違いを、しみじみと思わせる月である。
それにしても、子どものお陰でこそ、二月の雪も、さ
えざえとよろこんでいることであろう。若し世の中が
おとなばかりだったら、二月の雪も、これはたまらぬ
といじけふるえてしまうことであろう。

(倉橋惣三選集 第三卷 育ての心より)